

具象絵画35歳以下の有望新人

第3回 絹谷幸二賞に桑久保徹氏 決まる

同奨励賞に西田菜々子氏

35歳以下の若手画家を応援し具象絵画の可能性を広げることが目的とする「絹谷幸二賞」の第3回受賞者が決まり、主催する毎日新聞社より発表された。本賞の絹谷幸二賞に桑久保徹氏(32歳)、同奨励賞には西田菜々子氏(24歳)が選出された。3月16日、東京千代田区の学士会館にて「第3回絹谷幸二賞贈呈式」が開かれる予定だったが、直前に起きた東日本大震災のため中止となった。

同賞は現代日本を代表

する画家の一人で日本芸術院会員・独立美術協会会員として活躍する絹谷幸二氏が08年、「若い画家を励ましたい」と毎日新聞社に提案



桑久保徹氏



桑久保徹「共同アトリエ」©Toru Kuwakubo

し、創設された。同氏はかつて洋画壇の登竜門である安井賞展で受賞、それで大きな力を得たという自らの体験が創設の元にある。同氏が資金を提

供(ただし審査等にはノータッチ)、毎日新聞社が主催、協賛に三井物産株式会社加わる。賞の対象は、当該年(第3回は2010年)12月現在、35歳以下で国籍は問わない。国内の展覧会に出品された具象的絵画。筆またはそれに準じる画材・身体を用い、紙やキャンバスなどに描いた作品が基本。

主催者発表によると、その選考は毎日新聞社が全国の美術館学芸員や評論家、ジャーナリストら

に推薦を依頼。この第3回では45人に依頼し27人から回答があった。その結果、賞の候補者として25人(そのうち一人は3人が推薦)が選ばれた。さらに3人の選考委員によるポर्टフォリオ審査や作品視察、1次と2次計2回の審査を経て受賞者が決定した。選考委員は委員長・本江邦夫氏(美術評論家・多摩美術大学教授)、中井康之氏(国立国際美術館主任研究員)、福田美蘭氏(画家)の3人。

今回、絹谷幸二賞を受けた桑久保徹氏は1978年神奈川県座間市生まれ。02年多摩美術大学絵画科油画専攻卒業、現在も同市を拠点に活躍中。



西田菜々子氏



西田菜々子「niwa/イン京都」
©Nanako Nishida

これまで小立芸術大学美術学部美術山登美夫ギャラリー(東京江東区)で個展開催があり、昨年「アール2010(国立新美術館)、トーキョーワシントンサイト(TWS)渋谷などで大作を発表、その成果が評価された。奨励賞を受けた西田菜々子氏は1986年宮城県生まれ。09年京都市薦作家は以下の通り。

五月女哲平、富井綾子、南光理絵、西田菜々子、はまぐちさくらこ、平川恒太、藤部恭代、北城貴子、山下耕平、渡辺豊(五十音順・敬称略)